

避難時のことろえ

避難時の注意事項

災害時の避難は、普段通っている道でも、慎重に歩きましょう。また、頭上からの落下物や飛来物にも十分注意しましょう。いざという時あわてないためにも、どこへどの道を通って避難するのかを普段から家族や隣近所でお話しておきましょう。

避難は・・・
「落ち着いて」
「安全に」



非常持ち出し品

日頃から非常時に備え、持ち出し品（各家庭ごと2～3日分）を用意しておきましょう。乳幼児・子ども・高齢者等、各人の状況に応じた備えもしておきましょう。



各地域での備え

自主防災組織の活用

茅野市全域が大きな災害に見舞われた場合、すべての地域で同時に救助や消火が必要となります。

しかし、消防や警察などが、道路寸断や大規模な火災などにより行く手をはばまれ、ただちにみなさんの元に行くことができるとは限りません。

そこで、消防や警察がかけつけるまでの間、消火や被災者の救助、安全な避難、食料・飲料水の確保など、地域に住むみなさんが協力をして自分の身を守る組織が、自主防災組織です。



自主防災組織をもっと機能させるために

自主防災組織をもっと機能させるためには、防災訓練などの活動に積極的に取り組むことが大切です。若い世代も含めた幅広い参加を呼びかけ、自主防災組織をより活発に活動させるための方法を考えてみましょう。

- もし災害が起こったらどうなるか繰り返し考えましょう
 - ・災害が起きたとき、地域がどうなるか想像してみましょう。
 - ・必要になること・必要になるもの・役立つものを考えてみましょう。
 - ・役員・運営委員以外からもアイデアを募り、積極的に取り入れましょう。
- 幅広いコミュニケーションを大切にしましょう
 - ・日ごろからの近所づきあいをしましょう。
 - ・地域づくり・まちづくり活動をしましょう。
 - ・地域のお祭りや学校の運動会に参加しましょう。
- 協同(コラボレーション)を考えましょう
 - ・避難所となる学校、災害時に役立つ資機材をもつ事業所と協同しましょう。
 - ・近隣の自主防災組織と協同しましょう。

地域内での助け合い

災害が発生したら、お互いに助け合いながら避難しましょう。特に、災害時に自力で避難することが困難な要配慮者の方は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。



★要配慮者とは…

災害時に特に配慮や支援が必要となる人々です。具体的には、高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、外国人など避難行動や避難生活において困難を抱えやすい人々です。

